

農山村振興・環境保全対策特別委員会記録

1 会議の日時	令和 7 年 5 月 1 2 日 開 会 午前 9 時 5 7 分 閉 会 午前 1 0 時 3 7 分	
2 会議の場所	第 3 委員会室	
3 出 席 者	委 員	委員長 村下 貴夫 副委員長 田中 勝士 委 員 渡辺 嘉山 伊藤 秀光 布俣 正也 伊藤 英生 恩田 佳幸 所 竜也 小川 祐輝 森 益基
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	主査 杉山 俊之 課長補佐 佐藤 由子	

5 会議に付した案件		
件名		審 査 の 結 果
1	令和7年度重点調査項目等について	原案どおり決定
2	令和7年度所管事務事業の説明聴取について	
3	令和7年度委員会活動について	正・副委員長に一任
4	その他	

6 議 事 録（要点筆記）

○村下貴夫委員長

ただいまから、農山村振興・環境保全対策特別委員会を開催する。

最初に、当委員会の運営については、委員会が所管する特定分野の中から、テーマを絞り込んだうえ、正副委員長主導のもと、調査検討し、2年を目途に委員会として、一定の提言を行うことを目指すものである。

委員の皆様には、積極的な審議をお願いする。

初めに、当委員会の本年度の重点調査項目については、5月8日の正副委員長会議において、お手元に配付しているとおり、農山村振興・環境保全対策の推進に関することと決定したので、承知をお願いしたい。

なお、具体的な調査項目については、お手元に配付した資料のとおり、1 農山村振興対策について、2 環境保全対策についての2項目について、当委員会として調査してはどうかと思うが、いかがか。

（「異議なし」の声あり）

○村下貴夫委員長

意見等もないようなので、案のとおり調査していくことに決定する。

それでは、調査項目に係る所管事務事業について説明をお願いする。また、執行部の紹介もあわせてお願いする。質疑は、説明終了後に願う。

（執行部 挨拶・紹介）

（執行部 説明）

○村下貴夫委員長

ただいまの説明に対し、質疑はあるか。

○所竜也委員

ニホンジカの個体数抑制に向けた捕獲活動支援の詳細は。

○櫛田農村振興課鳥獣害対策室長

個体数調整のためにニホンジカを捕獲した際は、1万5千円／頭を補助してきたが、今年度から新たに、捕獲が非常に困難な地域である伊吹山麓、乗鞍山麓の一部を特別区域に設定し、当該区域の捕獲単価を2万円／頭に増額して補助する。

○所竜也委員

I C Tを活用した遠隔監視捕獲システム技術の導入推進の詳細は。

○櫛田農村振興課鳥獣害対策室長

昨年度に揖斐川町で実証した、自宅に居ながらスマートフォン等でわなを確認して捕獲できるシステムについて、今年度は高山市丹生川町で再実証するもの。

○所竜也委員

森林サービス産業のインバウンド受入事業者への支援の詳細は。

○山岸森林活用推進課長

インバウンド受入れの先進事例や実績を有する事業者のノウハウを学ぶ研修会の開催を考えている。

○所竜也委員

インバウンドの受入れは地域の活性化につながると思うが、外国人は基本的に公共交通機関を利用しており、森林までの移動手段が課題となるため、考慮して進めていただきたい。

○伊藤秀光委員

アユがすむ場所が減っているのではないかとされているが、河川管理者との連携や漁場づくりの状況は。

○桑田里川・水産振興課水産振興企画監

釣れる漁場づくりを行い、遊漁者を誘客するには、川の環境が大事であるため、河川管理者と連携していく。また、各河川の強みを発信することで遊漁者を誘客したいと考えており、若い遊漁者を誘客するため、若者に人気のルアー釣り漁場を創出し発信するなど、専門家を派遣して漁協をサポートしていく。

○伊藤秀光委員

ルアー釣り人気で若者が集まってきても、漁場がないようでは駄目なので、川の環境整備を含めた漁場づくりをお願いしたい。

G-クレジット制度の現状は。

○河本森林活用推進課森林吸収源対策室長

これまでに1,752トンのクレジットを認証し、完売している。今年度は約5,000トンのクレジットの認証を見込んでいる。

○伊藤秀光委員

具体的な認証量の目標はあるのか。

○河本森林活用推進課森林吸収源対策室長

明確な目標はないが、各事業者からのプロジェクト計画書から今年度は約5,000トン、来年度は約10,000トンと見込んでいる。

○布俣正也委員

太陽光発電設備等の導入拡大の詳細は。

○安江省エネ・再エネ社会推進課長

一般世帯向けと事業者向けに太陽光発電設備等の導入を支援する事業で、一般世帯向けの支援は市町村を通じた間接補助、事業者向けは県からの直接補助で実施している。一般世帯向けについては最大7万円／キロワットの補助単価で上限5キロワット、事業者向けは最大5万円／キロワットの補助単価で上限30キロワットを支援しており、併せて蓄電池の導入も支援している。

○布俣正也委員

太陽光発電設備等の需要は増えているのか。

○安江省エネ・再エネ社会推進課長

昨年度の県の補助実績として、一般世帯向けは太陽光発電設備への支援が514件、蓄電池への支援が409件、事業者向けは、太陽光発電設備への支援が41件、蓄電池への支援が18件となっている。近年、電

気料金が高騰している中、太陽光発電設備等への需要は増えており、特に自家消費目的のための蓄電池の需要が増えている。

○布俣正也委員

地産地消型の木質バイオマス燃料の利用促進の詳細は。

○中村森林経営課林業改革室長

木質バイオマス利用ボイラーについて、導入を予定している事業者へのアドバイザー派遣や、商業施設等に導入する事業者への経費補助、その他、未利用材の搬出支援を行う。

○布俣正也委員

バイオコークスは支援の対象になるのか。

○中村森林経営課林業改革室長

木質系のチップ、まき、ペレットを利用する設備が対象で、木質系でないバイオコークスは対象外である。

○村下貴夫委員長

質疑も尽きたので、これで所管事務事業の説明聴取を終了する。

次に、本年度の委員会活動についてである。

特別委員会の視察については、配付してある委員会視察要領、委員会視察に関する申し合わせ事項のとおりである。視察先等については、必要性を十分に勘案し、委員をはじめ、関係者と調整のうえ、決定する。詳細については、正副委員長に一任願いたいと思うが、異議はあるか。

（「意見等なし」）

○村下貴夫委員長

意見等も無いようなので、そのように進めさせていただく。

次に、その他報告事項として、執行部の報告を求める。

（執行部 説明）

○村下貴夫委員長

ただいまの報告に対し、意見はあるか。

○所竜也委員

農業機械の価格が高騰しており、取得にあたっての費用が農業経営の負担となっている。引き続き、機械等の導入に対する補助事業の予算確保をお願いするとともに、国へもしっかりと働きかけてほしい。

○伊藤英生委員

食料自給率について、カロリーベースより生産額ベースで算定した方が高く出ると聞いている。県としてどちらを考えていくのか。

○佐藤農政課長

生産額ベースで算定した方が高く出ことは承知しているが、県民への食料の安定供給という観点を踏まえると、カロリーベースをメインに考えていきたい。

○村下貴夫委員長

意見も尽きたので、これをもってその他報告事項について終了する。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、他に意見はあるか。

○渡辺嘉山委員

コクチバスの駆除状況は。

○桑田里川・水産振興課水産振興企画監

駆除総合対策に基づき駆除を進めており、令和6年度末までに、1,777尾を電気ショッカーボート等により駆除した。取組状況としては、コクチバスの生息場所を特定し、捕れなくなるまで駆除活動を継続している。長良川ではおおむね生息場所を特定できており、令和7年度中の完全駆除に向けて取り組んでいる。

○渡辺嘉山委員

長良川でのワニガメ幼体捕獲の新聞報道について、現在わかっていることは。

○江崎環境生活政策課生物多様性企画監

本日、発見者と連絡が取れたため、カメの回収に向かったところ。ワニガメではない可能性もあることから専門家等と特定を進め、必要な対応を行っていく。

○渡辺嘉山委員

産卵したカメがいるはずなので、速やかな対応をお願いしたい。

○村下貴夫委員長

意見も尽きたので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

農山村振興・環境保全対策特別委員会 配席図

令和7年5月12日

第3委員会室

出入口

傍聴席・記者席

出入口

桑田 里川・水産振興課 水産振興企画監	工藤 農産園芸課 花き・農業環境 対策監	楠田 農村振興課 鳥獣害対策室長	
石田 家畜防疫対策課 室長	桑畑 畜産振興課 飛騨牛銘柄推進 室長	中原 畜産振興課 食肉流通対策室長	稲川 農政課 スマート農業推進 室長
浅井 家畜防疫対策課長	伊藤 課長 里川・水産振興	近澤 農村振興課長	大下 畜産振興課長
長谷川 農業経営課長	佐藤 農政課長	若山 農政部次長	堀 農政部長

中村 森林経営課 林業改革室長	河本 森林活用推進課 室長	江崎 環境生活政策課 生物多様性企画監	松尾 省エネ・再エネ 社会推進課 エネルギ―企画監
和田 農地整備課長	大島 森林保全課長	石田 森林経営課長	安江 省エネ・再エネ 社会推進課長
古田 農政部次長	河尻 農政部次長	山岸 森林活用推進課長	大川 環境生活政策課長

